

# 令和7年度 南多摩同窓会あかね会 定期総会開催

令和7年5月18日(日)11時から、八王子エルシーにおいて定期総会が開催されました。新型コロナウイルス禍から3年が経ち、かつてのマスク着用、手指消毒もなく日常が戻り、出席者は前年より多い40名となりました。新入会員は4名出席予定のところ2名が出席されました。



第1部の定期総会は、萩原智弘庶務(昭和51年卒)の進行により始まり、浜中賢司会長(昭和44年卒)から、「母校は開校116年を迎え、第四高女、南多摩高校から中等教育学校へと発展してきました。今後、学校、PTAの皆さんとも連携して学校を支援し、同窓会員の相互親睦を図ってま

いりたい。新たに参加いただいた会員の方にも会の運営にご協力をいただきたい」と挨拶がありました。

次に、名誉会長の富川麗子校長から「本年、伝統校の校長に着任し気の引き締まる思いです。南多摩は戦後、家庭科学習・ホームプロジェクトで先導してきた歴史があり、教員が米国を訪れそれを広め、米国からも教員が来た歴史があり、探求活動を実践した素晴らしい歴史がある」と、歴史をひもとく挨拶をいただきました。



続いて、議長に藤森雄一常任委員(平成4年卒)が選出され、議事が進行されました。

令和6年度の事業報告が入沢修自副会長(平成5年卒)から、決算報告が日高典子会計(昭和55年卒)により行われました。



次に、監査報告が加藤晃会計監査(昭和38年卒)から行われると、それぞれの報告に異議はなく承認されました。引き続き、令和7年度の事業計画案、予算案が入沢副会長、高取早苗会計

(昭和55年卒)から説明され、これらも質問や異議がなく承認・可決されました。

次に、浜中会長から役員改選案が提案され、会長、副会長ほか14名の役員案が異議なく承認されました。浜中会長から、引続き同窓会の円滑な運営に努めていきたいと挨拶がありました。結びに、新任の齋藤博志副会長(昭和50年卒)の閉会の挨拶をもって、第1部は無事終了しました。

第2部は、昭和44年卒業の藤崎隆司さんにより「人生いろいろ～バスケットと日本画と」の演題で講演会が行われました。西澤篤司庶務(平成2年卒)の進行で始まった講演会は、スライドを上映しながら話が進められました。

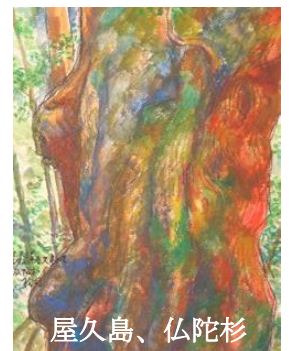


講師は、東京学芸大学教育学部卒業後に、学芸大附属養護学校教員を経て、東京都立高等学校教員(保健体育)に就きました。

その傍ら、バスケットボールで東京都教員チームに所属し、国民体育大会などに出場し、青森国体では全国優勝を勝ち取るなどの成績を収めました。28歳で全国優勝を果たしたとき、攻撃で「フォーメーション藤崎」なるもので大量得点を重ねた。「28歳が最高潮だった」と振り返りました。

40歳を過ぎて高校の同僚教員(美術)に師事し、日本画教室に通い絵画の道に進むようになったとの経歴が披露されました。

日本画は容易に上達せずに苦労したが、「屋久島、仏陀杉」に挑戦したとき先生から褒められた。「色使いが良くなった。見えないものが見えてきたね」と。また、「奥入瀬溪流」製作では、スケッチを重ね写真撮影で補ったが、先生から「写真に頼るな。自分の宇宙を持ち自信をもって描きなさい」と言われた。



屋久島、仏陀杉

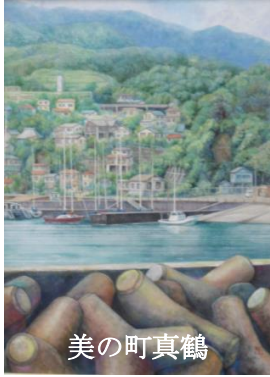


奥入瀬溪流

「ひまわり」の作品では70歳過ぎに「新人賞」をいただいたが、近所から枯れた向日葵をもらい、種の生命力の強さを感じて、一粒一粒を描いた。真鶴町の風景画は、町が環境を守る



ひまわり



美の町真鶴

うと建物は2階建てまでの規制をし、「美の基準」を作った。いつまでも昔と変わらない風景がそこにあり、生まれた小田原に近い街なので、何度も写生等に通うことになった。

あっという間に講演時間の40分を迎え、名残惜しいなか終了となりました。

第3部の懇親会は、入沢副会長及び松葉優樹庶務（平成24年卒）の進行により始まりしました。浜中会長の挨拶のあと、母校副校長の山下創氏、渡邊由紀氏から挨拶をいただき、続いて川本洋輔PTA会長から「滝島会長から会長を引き継ぎ、同窓会と連携して学校、生徒を応援していきたい」とエールが送られました。



続いて、新任の齋藤博志副会長から乾杯の発声があり、懇親会が始まりました。「沢山の会員にお集まりいただき、感謝します」とのお話がありました。

美味しい料理に舌鼓を打ちながら、会員の皆さんの歓談が一区切りした頃、新任会員の紹介が始まり、2人から一言ずつ挨拶をいただきました。

2人とも在校時は和太鼓部の所属し、全国大会などに参加したこと、また2人とも東京学芸大学



に進まれ、国語と数学を先行されていることなどが披露され、会場の皆様のかっさいを浴びました。

宴も賑やかになった頃、常任委員でもあるシンガーソングライターSIOの小塩晶人さん（昭和62年卒）にギター演奏で歌っていただきました。

日野出身のSIOは、システムエンジニアとして就職したが、30歳を前に音楽の道に進み、その翌年YAMAHA主催の全国大会に出場して「最優秀歌唱賞」を受賞しました。その後、母校日野第一中学校70周年記念に「僕らの町」を作詞作曲して、合唱部とのコラボが実現したという。

「中央線で立川を越えると気温が3度くらい下がり、八王子に行くとも5度も下がる」と話しをしながら、「僕らの町」が情感をもって歌い上げられました。6月22日には日野煉瓦ホールで「僕たちの町コンサート」を開催することも、紹介されました。



最後に、10期生のお二人の音頭により、母校校歌「湧水は街を巡り・・・」を高らかに合唱しました。

結びに、川崎恵美子会計監査から閉会の言葉が述べられ、総会、講演会、懇親会の3部建ての定期総会は散会となりました。

